

主日礼拝

2025年10月19日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前 奏 『おおイエス、わが喜びよ』 J.G. ヴァルター
招 詞 詩編148編12～13節
賛 美 歌 7

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 イザヤ書33章17～22節 (旧約1097頁)
ヨハネの黙示録7章9～17節 (新約448頁)

子ども説教
奉 唱 『主イエスはまことのぶどうの木』 教会学校
交 読 詩 編 詩編36編1～10節 (42頁)
賛 美 歌 432
説 教 「礼拝者の喜び」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 580

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌 栄 24
祝 福
報 告
後 奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

「礼拝者の喜び」

『イザヤ書』では、来るべき主の支配による様子を、過去の試練を思い出しつつ語られます。かつてアッシリアがエルサレムを包囲した時、ユダのヒゼキヤ王は、多くの家畜を数え、莫大な金銀を量って、アッシリアへの貢ぎ物とし、軍備を調べました。それほどに脅かされていたのです。しかしやがておいでになる主により、エルサレムは「祭りの町」、「安らかな住まい」となります。エルサレムには無かった幅広い「川」が流れて町を潤しますが、そこには敵の軍艦は来ないのです。神の民は、主を崇めて礼拝します。「主は私たちの王。この方が私たちを救われる」と賛美しつつ。

『ヨハネの黙示録』では、終わりの日に、玉座におられる「神の小羊」である主イエス・キリストを囲んでささげられる礼拝の様子が書かれています。数え切れぬほどの白い衣を着た大群衆は、「天使たち」、「長老たち」、「四つの生き物」と共に「昼も夜も神殿で」礼拝をささげ続けるというのです。なぜなら、玉座におられる小羊が、彼らといつも共におられ、恵みで満たし、命の水の泉へと導いてくださるからです。主と共にいる者は悲しみの涙を拭われ、最大の幸いを無限に与えられます。

本日は聖霊降臨節最後の主日です。聖霊降臨によって教会が生み出され、聖霊に導かれつつ伝道に励みます。そのようにして、やがてもたらされる「終わりの日」を待つのです。その時には神の国が完成し、救いが完成します。そして永遠の命の恵みに感謝して、私たちも神の御前で礼拝をささげる喜びを味わうのです。